4E
4E実施協定
最終電力使用機器のエネルギー効率向上
国際エネルギー機関

SP2

テレビの待機電力

4E 実施協定の待機電力アネックスは、政府の政策担当者に対し、電力使用機器が待機電力モード時に消費する電力量を改善するための情報やツール、政策などを提供しています。この概要報告書ではテレビによって消費される待機電力を減少させる取り組みをしている４Eアネックスに加入している政府などの成功例を報告します。

政策担当者への情報

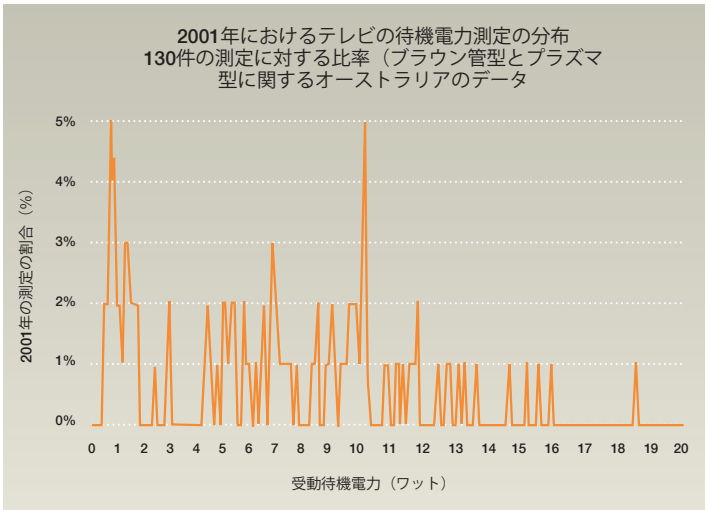
- 世界的にテレビの待機電力消費は減少傾向 にあり、政府が掲げる効率改善の国際目標が産業界の努力によって達成できることを証明しています。
- **4E**実施協定などの組織を通して待機電力が重要な問題であることを認めている政府は、テレビ製品の設計にも影響を与えてきました。
- 世界のテレビ製造企業は、過去**10**年間にわたり、待機電力の目標**1**ワットに対し前向きに対応してきました。規制政策は、他の政策に比べて著しい結果を迅速にもたらすようです。
- 政府による正確な情報の収集が成功に繋がります。
- 家庭内でもテレビをインターネットなどのネットワークにつなぐことが増加しており、テレビ電力消費の次の課題としてネットワーク待機電力へ取り組む必要があるでしょう。

詳しい情報

アネックスが提供するすべての情報はアネックスのホームページで公開されており、
http://standby.iea-4e.org
でご覧いただけます。
また、アネックスは世界の待機電力に関する諸問題や行事などの最新情報を定期的にお知らせするニュースレターも刊行しています。ホームページから無料購読申し込みが可能です。

2012年10月公開

重要な知見



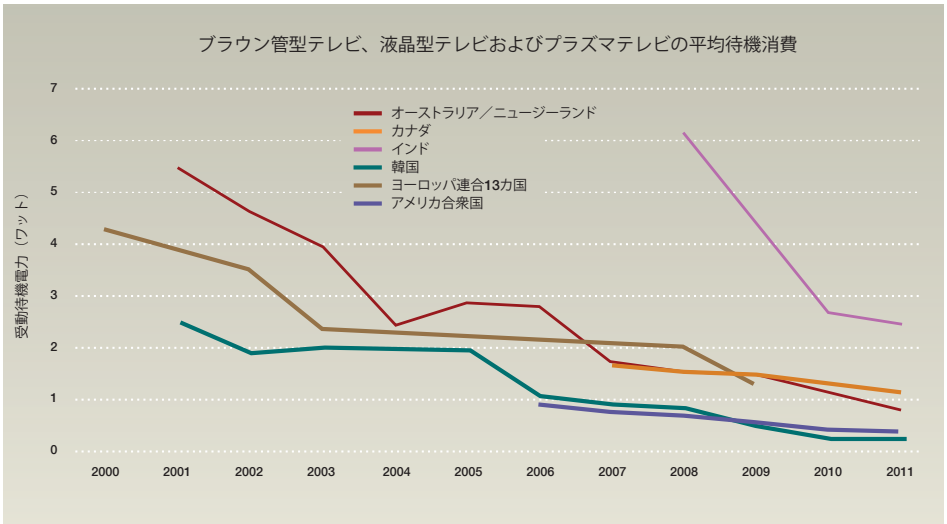
テレビが浪費している電力

1990年代、国際エネルギー機関は電子機器のエネルギー効率を改善する政府の政策計画に対し、待機電力がリスクとなると指摘してきました。うまく設計されていないテレビや不適切な使用法によって、待機電力の40%から80%が浪費されてきました。2001年のオーストラリアのテレビを例に取ると、テレビが稼動していない際の受動待機電力は0.5ワットから18ワットも消費されたことが報告されていました。

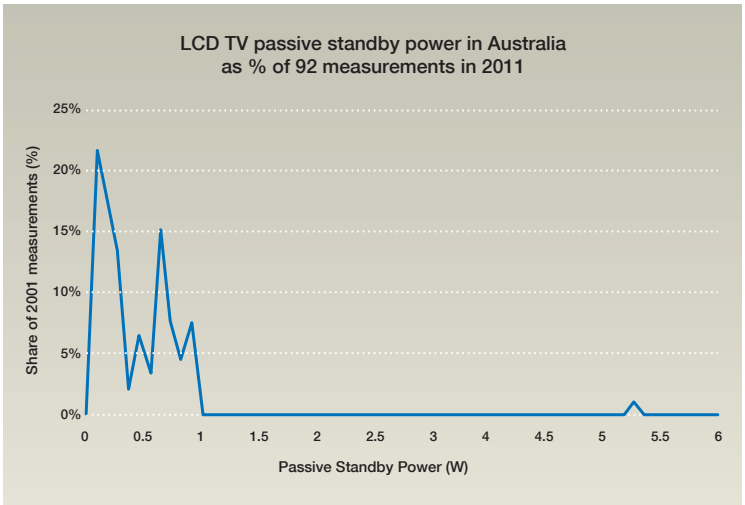
それ以降、４E実施協定加入国は、「うまく設計されていないテレビを市場に野放しにしてエネルギーを浪費させ続けるべきか？　」　と問い掛け、10年以上の測定によって待機電力の情報を集めました。政府によって世界のテレビ産業に首尾一貫してこの問い掛けを投げかけてきた結果、テレビによって消費される待機電力は徐々に改善されてきました。

目標1ワットの達成

ほぼ全ての地域で、テレビの待機電力消費がIEAの目標である1ワットに低下しています。これは、2011年の世界のテレビ市場の45%を占める6つの国と地域における、ほぼ9,600件の市販品の測定結果に基づいています。



韓国では、自由参加の規制ではなく強制的な規制政策の実施によって他国に比べ常に20%から50%低い平均待機電力水準が達成されており、待機電力低減への政策介入の成功例として世界をリードしています。



消費電力の低下

オーストラリアでは10年以上にわたってテレビの待機電力性能が継続的に観察され公開されてきました。2009年にオーストラリアは、低電力モードを備えることを含めたテレビ効率に関する規制を導入し、今日では国の市場の平均が1ワット以下となっています。

４E実施協定の特別報告書「テレビの待機電力の動向」に詳しい情報が掲載されており、これはアネックスのホームページ　**http://standby.iea-4e.org**からダウンロードできます。

最終電力使用機器のエネルギー効率向上に関するIEA実施協定は、ここで使用されているデータは信頼でき、正確なものであるように最善の努力をしていますが、ここにあるデータの正確さについて保証するものではなく、この報告書の内容に基づいてとられた行動や決定に対する責任は負いかねます。